

学校をリードする上級生になろう！

特別活動 第6学年
七尾市立和倉小学校・教諭

1 事例の概要

本校児童の実態として、「親子のふれあいが少ないことや、異学年児童とのかかわりを就学前に経験する機会が少ない。」ことが指摘されている。このような家庭や地域社会における児童の人間関係の希薄化の実態から、学校教育においても児童の望ましい集団活動の充実の一層の工夫が求められている。そこで本校では、異学年交流活動（縦割り班活動）を特色ある学校づくりを進める一環として位置づけている。学校全体で集団活動の充実に向けて、縦割り班活動を効果的に実施し、創意工夫することが、児童の生活や経験を豊かにし、自主的・実践的に活動する意欲や態度の育成につながる。また本校は単式学級であることから、学級活動（高学年を中心に特に6年生）がそのまま円滑な児童会活動（縦割り班活動）や学校行事の運営に密接に関わってくる。

本事例は、このような本校の取り組みの中で、話し合い活動の円滑な運営方法を学びながら、上級生としての意欲を高めることに焦点を絞った4月当初の取り組みである。

A-1 縦割り班活動案

A-2 児童会活動組織図

2 実践内容

(1) 単元の目標

和倉小学校の最上級生として、学校のよさを引き継ぐための意気込みを話し合い、また学級のめあてを設定し、意識しながら活動に取り組むことを通して、学校のリーダーとしての取り組みを確かなものにする。

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 指導法の工夫

学級全員で協力して解決に取り組むためには、話し合い活動を充実することが大切である。問題発見から話し合い、解決まで様々な過程を繰り返し実践することによって、特別活動の特質である自主的・自治的な活動が推進される。そこで日常的に学習活動の中で、児童相互の話し合いを展開の中に必ず位置付け、情報や意見を交流させながら、問題の解決や対処の方法などについて、望ましい方向を見いださせていく工夫を設定した。また、国語科や社会科でも話し合いの場を多く設定した。

② 学習定着のための工夫

ア 学習ルールの定着

児童が楽しく前向きに学習に参加するための心構えとして『はりきって楽しく学習するために』を配布し共通理解を図った。また、発言する意欲はあるが、その発言方法に不安な児童に対する手だてとして、『授業中の話し方について』を示した。話し方を繰り返し指導することで活動意欲を高め、それが学習ルールへの定着につながると考えた。

イ 特別活動的環境作り

互いに認め合い、確かめ合いながら話し合い活動を展開するために座席の位置（互いに顔が見えるように）を工夫した。また、話し合い活動の手助けとして、『話し方マニュアル』を常に掲示することで、児童が自信と意欲をもって活動に参加できる体制を整えた。

③ 評価の工夫

杉田¹⁾は、「適切な評価の在り方や方法、評価方法の生かし方などの開発を進め、具体的に指導の改善充実に努める必要がある。」とより具体的な評価、適切な評価方法を開発するように努めることが大切であると説いている。そこで評価カード『がんばりピフォーアフターカード』を作成した。活動の姿をなるべく具体的にイメージし、評価の視点を児童一人一人の‘ピフォ

一’（活動の取り組み前）と‘アフター’（活動の取組み後）の集団としての意識、個人として意識の変容に焦点化することで、特別活動では見取りにくい集団活動と個人の活動状況や変容などを知る評価資料とした。また4月当初にこの評価カードを配布することで年間の取り組みや活動に見通しを持たせ、活動への意欲的な取り組みを期待した。

B-1 学級経営略案	B-2 学級活動計画	B-3 指導法の工夫①（心構え）
B-4 指導法の工夫②（話し方の手引き）	B-5 指導法の工夫③（話し合い用座席）	
B-6 指導法の工夫④（掲示資料）	B-7 指導法の工夫⑤（オリジナル評価カード）	

3 指導の実際

活動内容 ●児童の反応	*指導上の留意点（支援）	評価
2. 本時の活動内容をつかむ ●心と体を話し合いにスイッチオン [活動形態] 児童による自主的な活動 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 和倉小学校のよさを再発見しよう </div>		自分の考えを進んで発表している
3. 本時の活動内容に迫る [活動形態] 教師の指導と児童の主体的な活動の組み合わせ ●下級生のため、学校のために頑張るぞ ●学校をリードしてお兄ちゃん、お姉ちゃんになろう <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 学校をリードする上級生になろう </div>	*見通す場を設定する *六年生の活躍を見ていて感じたことからめあてを考えさせる *和倉小学校校歌の二番の歌詞に意識をもたせる *活動が遅れがちな子どもに配慮しながら進める	【評価の方法】 行動観察

C-1 指導案	C-2 指導案（他教科との関連）
----------------	-------------------------

4 成果と課題

(1) 指導の工夫点（視点）について

話し合い活動の充実や活動意欲を高める学習ルール・環境作りを意識することで、児童の思いを活かし、和倉小ならではのフレーズができあがるなど、子ども達にめざす学級像や児童のめあてを明確に意識させ、活動意欲が高めることができた。

『がんばりビフォーアフターカード』の自己評価では、「自分達の力で協力して楽しく活動できた」との満足感は表れている。今後はカードを学校全体での評価方法として広げるとともに、年間指導計画とタイアップした6年間を見通したものに作りかえていきたい。また、随時行事ごとに保護者の方にも感想を頂いており、外部評価として今後の活動に活かしていきたい。

(2) 異学年交流活動について

学年や学級を越えた様々な集団の中で、異学年の児童と関わる経験を積むことにより、社会性が育ち、集団の一員としての自覚を深め、学校や地域の中で協力して生活しようとする態度が育ってきている。特別活動で身に付けた力は、他の内容や教科等におけるグループ学習等で発揮され、より学級や学校の生活が充実するよう、さらに、縦割り班活動を進めていきたい。

5 その他

参考文献 1) 杉田 洋 「特別活動の評価方法等の開発」『初等教育資料』No.796 東洋館出版社平成17年、p58～65